

# 日本免疫毒性学会 2015 年 評議員会 兼 会員総会 議事録

日時:2015 年 9 月 10 日 12:50~13:35

場所: 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール I

議長: 高野年会長

1. 理事長挨拶(吉田理事長):台風 18 号の影響で、特に関東からのご参加について危ぶまれた点もありましたが、高野年会長の下、充実した第 22 回学術年会が開催されています。総会での事業報告は、昨年総会以降の内容となりますが、事業報告と事業計画については「年度」を外すこととし、事業報告は今年だけは特別に 2014 年 4 月から 2015 年 9 月まで行い、今年事業計画も含め、以降は当該年 10 月から翌年 9 月までの事業報告としますのでご了承ください。

## 2. 報告事項

### (ア) 事務局報告(大槻理事)

- ① 会員動向:会員数は横ばい、役員は来年が改選、評議員については後ほど、新候補者 6 名について審議をいただきたい。
- ② 会費納入状況・納入方法の追加:ここ数年、納入率が 85%弱となっており改善が望まれる。本年 10 月の名簿用の会員情報調査のときから開始し、次年度以降の納入依頼に際してゆうちょ銀行口座への ATMあるいはネットバンキングでの納入も可能とした。
- ③ バナー広告の現状:現在 3 社が利用。広告費は学会運営にも大きな影響を持っており、会員各位には企業紹介を事務局までお願いしたい。

### (イ) 学術大会報告

- ① 第 21 回開催報告(姫野年会長・代/大槻理事):昨年は 133 名の参加で、若手企画のシンポジウムなどもあり、盛会裏に終了した。
- ② 第 22 回報告(高野年会長):多くの会員の方々に集まっていただき感謝している。本日と明日予定されており、活発な発表と討論をお願いしたい。
- ③ 第 21 回準備状況(森本年会長。代/大槻):総会最後に森本年会長より案内があるため、期日(2016 年 9 月 5~7 日)と会場(北九州国際会議場)の案内に止められた。

### (ウ) 委員会報告(大槻理事)

- ① 学術・編集委員会:2 号の ImmunoTox Letter は、更に読み易いように工夫を凝らした。また、昨年の年会でのアンケートは、ニュースレターへの掲載とともに WEB でも案内し、今後、会員の意見を運営委員会・理事会と共有し、有用な意見を積極的に活用する方向に努める。
- ② 広報委員会:WEB の充進と月平均 3.5 配信のメールマガジンを遂行中である。WEB のバナー広告については、是非利用したい企業の紹介をお願いしたい。
- ③ 試験法委員会
  1. ワークショップ等:昨年の年会以降に「免疫毒性試験法質問箱」に寄せられた質問に対して、明日のワークショップならびにニュースレターで「Q&A」方式で対応する。
  2. JaCVAM 皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会:継続して対応しており、現在 h-CLAT へのコメントを集約中である。
  3. AOP 検討委員会:JaCVAM 事務局の依頼により、資料掲載の委員会を構成して対応している。2014 年 3 月までにタクロリムスについて日本語版を作成した。今後その英語版(OECD 提出用)を作成する
- ④ 国際化委員会:2015 年 3 月の第 54 回 SOT での SOT/ITSS との合同シンポジウムでは、平野先生を派遣し、黒田先生(阪大)、李先生(川崎医大)に発表していただき、充実したセッションとなった。本年会では ITSS より Dr.Anderson を招聘し、明日発表していただく。来年 3 月の SOT では disaster がテーマということもあり、会員外

であるが弘前大学・吉田光明教授に「福島原発事故後の FISH 法による被爆検査」について報告いただくとともに、座長を務めていただく。今後も国際交流プログラムを継続していきたい。

(エ) 学会賞・奨励賞選考小委員会(手島委員長・代/大槻理事):2015年12月から2016年2月の期間中に応募のあった候補者を小委員会で慎重審議した結果、学会賞に澤田先生(医薬品医療機器総合機構),奨励賞は黒田先生(阪大),柳澤先生(環境研)を推挙し,4月の運営委員会と理事会で承認された。総会後に授賞式とともに,受賞講演を行っていただく。

(オ) 事業報告(吉田理事長):冒頭でも触れたように報告は今年に限り1年半分となる。投影および配布資料ならびにここまでのそれぞれの報告を承認いただきたい。会計については,審議事項の所で決算を承認後に,報告とする。

### 3. 審議事項

#### (ア) 会計(斎藤理事)

① 2014年度決算案:AOP作成費については,研究予算が次年度納入であったため建替分とその使用について,新たに項目立てされている。この件については翌年度に振込まれるため単年度では過剰支出になっているが,納入時期に依存しているので,ご了解いただきたい。会議費が過剰となっている。ホームページ維持費は,ニュースレター用の新URLの取得のために過剰となった。

② 2014年度監査報告(小島監事):高橋監事とともに適切に処理されていることを確認した。

③ 2016年度予算案:次年度支出について,SOT派遣については派遣者の所属組織の関係で不要となった。運営委員会は年2回にするため会議費を少なくした。また2015年度までは基金会計で執行していた学会賞と奨励賞の副賞の費用は,定例行事の費用と考えられるので,2016年度からは通常会計に組み込む。他は実勢に基づいている。

④ 以上,承認された。

(イ) 委員会,学術・編集委員会(野原理事):本日の委員会にて,ImmunoTox Letterの編集委員長を新藤先生にお願いし,委員の刷新などを進めていく予定である。

#### (ウ) 人事(大槻理事)

① 名誉会員・理事:名誉会員の推挙はなし。理事を含めた役員は来年が改選時期となる。

② 新評議員候補者:以下の6名が推薦されている。理事会では承認されており,本会に諮るものである。

小島弘幸, 会員番号	27	北海道立衛生研究所 健康科学部
上野 仁, 会員番号	243	摂南大学薬学部・公衆衛生学
久富晃彦, 会員番号	365	アステラス製薬株式会社 安全性研究所
串間清司, 会員番号	457	アステラス製薬株式会社 安全性研究所
小池英子, 会員番号	528	国立環境研究所・環境健康研究センター
武吉正博, 会員番号	615	(一財)化学物質評価研究機構

③ 監事・委員会委員長など:変更なし。役員は来年が改選時期となる。

④ 年会長:次々期年会長(第24回,2017年)に北里大学・中村和市理事が推薦された。

(エ) 事業計画案(吉田理事長):報告事項ならびに審議事項での会計と人事を踏まえて,2015年10月から2016年9月までの事業計画を提示する。

(オ) 以上,満場一致で承認された。

4. 次期年会長挨拶(森本理事):2016年9月5日~7日(月~水)に,北九州国際会議場にて第23回日本免疫毒性学会学術年会在開催される由,報告された。テーマを「社会に実践する免疫毒性学」として,市民講座も設ける予定であること,北九州市はエコタウンとして,また産業遺産がいくつか点在していることもあり,多くの会員の参加が望まれている由,報告された。

日時：2015年9月9日 15:00～18:30  
 場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

理事長挨拶（吉田理事長）

1. 報告事項

1. 事務局報告

- 1. 会員動向
- 2. 会費納入状況・納入方法の追加
- 3. パナー現状

2. 学術大会報告

- 1. 第21回開催報告
- 2. 第22回報告
- 3. 第21回準備状況

3. 委員会報告

- 1. 学術・編集
- 2. 広報
- 3. 試験法
  - 1. ワークショップ等
  - 2. JaCVAM皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会
  - 3. AOP検討委員会

4. 国際化

4. 学会賞・奨励賞選考小委員会

5. 事業報告

2. 審議事項

1. 会計

- 1. 2014年度決算案
- 2. 2014年度監査報告
- 3. 2016年度予算案

2. 人事

- 1. 名誉会員・理事
- 2. 新評議員候補者
- 3. 監事・委員会委員長など

3. 事業計画案

4. その他

3. 次期年会長：挨拶

事務局報告

会員	2006.4	2007.4.1	2008.4.1	2009.4.1	2010.4.1	2011.4.1	2012.4.1	2013.4.2	2014.4.8	2014.7.1	2015.7.2	2015.9.1
会員総数	255	253	223	232	231	240	237	221	210	212	207	213
一般会員	238	214	219	219	224	222	209	197	197	190	193	193
学生会員	12	6	7	7	10	9	6	5	7	9	12	12
賛助会員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名誉会員	3	3	5	5	6	6	6	8	8	8	8	8
住所不明による休会扱い	14	2	3	4	6	3	1	0	0	0	0	0
会費納入義務者数 一般会員/学生会員	225/11	212/6	217/7	215/7	218/10	219/9	208/6	197/5	197/7	190/9	193/12	193/12

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015.9.1
入会・退会者	16	25	25	24	19	12	12	15	11
入会	53 (36)	15 (3)	25 (5)	18 (20)	26 (12)	21 (5)	15 (7)	13 (6)	
退会									
( ) 内は会費滞納により退会処理した会員数									

役員	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015.9.1
理事	21	21	21	22	22	22	22	22	22
評議員	48	55	58	49	49	54	47	47	50
監事	2	2	2	2	2	2	2	2	2

会費納入状況	2007.3.3	2008.3.3	2009.3.3	2010.3.3	2011.3.3	2012.3.3	2013.3.3	2014.3.3	2015.3.3	2015.9.1
未納なし	175	197	209	206	198	190	191	174	171	141
未納あり	75	23	18	21	27	36	39	35	36	64
合計	250	220	227	227	225	226	230	209	207	205
納入率 (%)	70.0	89.5	92.1	90.7	88.0	84.1	83.0	83.3	82.6	68.8

区別	継続種別	No.	ネット種別	期指	契約書	会社名	担当者	窓口
		2	機器	2008.11～掲載	2008.10.3	株式会社 大森	広武 秀樹	270大槻先生
				2013.3月末				
				2013.9月末				
				2013.11-2014.04				
				2014.3月末				
				2014.05-2014.10				
				2014.9月末				
				2014.11-2015.04				
掲載中				2015.3月末				
				2015.05-2015.10				
		6	試薬	2009.05～掲載	2009.6.13	和光純薬工業株式会社	高嶋 啓之	85手島先生
				2013.3月末				
				2013.05-2013.10				
				2013.9月末				
				2013.11-2014.04				
				2014.3月末				
				2014.05-2014.10				
				2014.9月末				
				2014.11-2015.04				
掲載中				2015.3月末				
				2015.05-2015.10				
				2015.3月末				
		10	毒性試験受託	2011.12～掲載	2011.10.2	株式会社 新日本科学	西村 良成	034高橋先生
				2013.4月末				
				2013.06-2013.11				
				2013.10月末				
				2013.12-2014.05				
				2014.4月末				
				2014.06-2014.11				
				2014.10月末				
				2014.12-2015.05				
掲載済			終了					
				2015.4月末				

日本免疫毒性学会 会員各位

2015年10月1日

会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。  
 平素は学会活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて日本免疫毒性学会では、ホームページの会員専用サイトに掲載の会員名簿を11月初旬に更新する予定にしております。

(会員専用サイトへのアクセスは ID:immunotox PW:jsit です)

つきましては同封の「登録確認票」の内容をご確認の上、変更がある場合には直接訂正してFAXしていただくか、変更内容をメールにてお知らせ下さい。10月末日までにお知らせいただいた情報を「2015年度会員名簿」として更新いたします。

特に会員の方への連絡はメーリングリストにてお知らせしておりますので、メールアドレスの変更につきましては速やかに事務局までご連絡下さい。

FAX: 086-464-1125  
 E-mail: jsit-office@med.kawasaki-m.ac.jp

なお「登録確認票」には会費納入状況が記載されており、納入済みの年度には●丸が入れられています。会費未納ありの記載がある方は、同封の払い込み用紙にて納入して下さいますようお願い申し上げます。

また、ATM・ネットバンキングを利用しての振込みも可能です。振込みは下記をお願い致します。振込み人の名前と会員番号が分かるようにして下さい。

ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）  
 店名：二七九（ニナキユウ）店 店番：279  
 預金種目：当座 口座番号：0094411

行き違いで納入されていた場合にはどうぞご了承ください。  
 今後とも日本免疫毒性学会の活動に関しまして、よろしくお願ひ申し上げます。

# 学術大会・報告 1



参加者数 133名

特別講演 I Dr. Pallardy M (パリ大学)  
Immunogenicity Assessment of Biotechnology-derived Pharmaceuticals

特別講演 II 川村龍吉先生 (山梨大学)  
重鉛欠乏による皮膚炎発症メカニズム

教育講演 峯岸克行先生 (徳島大学)  
高IgE症候群の病因と病態の解明

シンポジウム  
次世代の免疫毒性研究を考える

試験法ワークショップ  
アレルギーと自己免疫疾患の新たな試験法を目指して

学会賞受賞講演: 大沢基保先生  
一般演題: 口演15題, ポスター23題



2014年 9/11(土)・12(日)

会場/徳島文理大学・国際会議場

「免疫毒性学研究の新たな一歩」

学芸員: 坂野誠一郎 (徳島文理大学薬学部)

特別講演 I: Marc Pallardy (パリ大学)  
特別講演 II: 川村 龍吉 (山梨大学薬学部 免疫学研究室)  
教育講演: 峯岸 克行 (徳島大学薬学部アレルギー免疫学センター)  
シンポジウム「次世代の免疫毒性研究を考える」

学芸員: 坂野誠一郎 (徳島文理大学薬学部)

特別講演 I: Marc Pallardy (パリ大学)  
特別講演 II: 川村 龍吉 (山梨大学薬学部 免疫学研究室)  
教育講演: 峯岸 克行 (徳島大学薬学部アレルギー免疫学センター)  
シンポジウム「次世代の免疫毒性研究を考える」

学芸員: 坂野誠一郎 (徳島文理大学薬学部)

年会賞  
国立環境研究所 小池英子  
学生・若手優秀発表賞  
大阪大学大学院薬学研究科 毒学分野 平井敏郎  
千葉大学大学院薬学研究科 高齢者薬剤学研究室 小沼盛司



# 学術大会・報告 2

第22回 日本免疫毒性学会 学術年会

JSIT2015

The 22nd Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology

免疫毒性の新たな視点  
— 毒性影響とかく乱影響 —

2015 9月10日(木)・11日(金)

会場 京都市百周年時計台記念館国際交流ホール  
年会長 高野裕久 (京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻 環境衛生学講座)

特別講演 Dr. Stacey Anderson (National Institute for Occupational Safety and Health, USA)

教育講演 一條 秀憲 先生 (東京大学 薬学研究所)  
善本 知広 先生 (兵庫県立大学 先端医学研究所)

シンポジウム 「毒性」影響から「かく乱」影響へ  
市瀬 孝道 先生 (大阪府立看護科学大学 看護学部) (京都府立医科大学 医学研究科)  
小池 英子 先生 (国立環境研究所 免疫毒理学研究センター) (新潟大学 薬学研究所 薬理毒理学講座)  
稲澤 利枝 先生 (国立環境研究所 免疫毒理学研究センター)

試験法ワークショップ  
口頭およびポスター発表 (学生・若手優秀発表者)

参加費  
会員 7,000円 (当日 9,000円)  
学生 3,000円 (当日 5,000円)  
非会員 9,000円 (当日 11,000円)

演題応募締切  
2015年 6月26日(金)

事前参加登録締切  
2015年 7月10日(金)

参加申し込み  
<http://heatheriv.kyoto-u.ac.jp/jit22-office/>  
詳細は学会ホームページをご覧ください

第22回日本免疫毒性学会学術年会事務局  
〒615-8540 京都市中京区高野町京都市役所  
TEL 075-383-3342 FAX 075-383-3344

主催/日本免疫毒性学会 共催/日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会  
協賛/京大薬学部 日本免疫学会 日本免疫毒理学学会 日本毒理学学会 日本毒理学研究学会 日本毒理学研究学会  
後援/日本アレルギー学会 協賛(後援)/日本毒理学学会 日本毒理学研究学会 日本毒理学研究学会

## 第23回学術年会

期日: 2016年9月5日(月) ~ 7日(水)

会場: 北九州国際会議場

会長: 森本泰夫  
産業医科大学 産業生態科学研究所  
呼吸病態学 教授



学術・編集委員会

1. ImmunoTox Letter 発刊

19 (2) : 2014年12月  
20 (1) : 2015年6月

- ✓ カジュアルな著者写真掲載
  - ✓ 発刊案内のmailing list にURLクリックにてダイレクトにPDF閲覧
  - ✓ 記事とWEBのエッセイ欄とのリンク
- 親しみやすい誌面構成

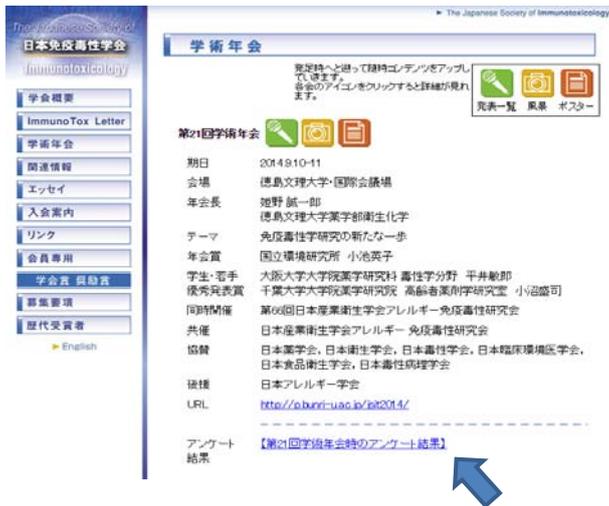
2. 第21回学術年会 アンケート

- 結果をImmunoTox Letter で報告
  - 日本免疫毒性学会WEBの第21回WEB直下にアップ
    - i. 年会について：好評だった意見多数、今後の年会企画の参考に
    - ii. 学会運営について：学会員と運営委員の意見の共有
    - iii. ニュースレターについて：配布法、編集方針等の見直し
- 第22回でも実施

3. 学会賞・奨励賞選考小委員会の設置

広報委員会

1. バナー広告：募集中（事務局まで）
2. Mailing List：平均3.5配信/月
3. 日本免疫毒性学会WEB：随時更新
  - 会員専用サイト：ID/PWは事務局にお尋ねください
  - 名簿も掲載中
  - 会員番号などの検索も可能。



試験法委員会

1. 試験法ワークショップ「免疫毒性試験法 Q & A」

- その他ImmunoTox Letterに掲載予定

2. JaCVAM皮膚感作性試験資料編纂委員会への対応

- 1) 評価報告書作成のために定期的に会議を開催：Direct Peptide Reactivity Assay およびARE-Nrf2 Luciferase Test Methodの評価報告書作成完了、The Human Cell-line Activation Test (h-CLAT) 評価報告書ドラフト案の内容確認
- 2) h-CLATのOECDテストガイドライン案へのコメント集約

3. AOP検討小委員会

委員（敬称略）：串間清司（委員長）

協力：小松弘幸（シミックバイオリサーチ）、大石巧、後藤 玄、杉本潤一郎（ボソリサーチセンター）、伊藤志保（第一三共）、大坪靖治、高橋義博（新日本科学）、吉岡直也（アステラス製薬）

昨年度活動：タクロリムスの AOP事例研究を行い、中間報告書を JaCVAM事務局に 3月末に提出

今期から 3年間

- 厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）「AOP及び IATAに立脚した国際的な安全性評価手法の確立（H27-化学-指定-003）」研究班（研究代表者国立医薬品食品衛生研究所生物試験研究センター長西川秋佳先生）に研究協力者として所属
- 免疫抑制に関する AOP（Adverse Outcome Pathway）及び IATA（Integrated Approach to Testing and Assessment）開発を担当
- 今後の予定：
  - i. タクロリムス事例研究を OECDに申請（4月）
  - ii. Eventの測定系を調査する（9月中旬）
  - iii. 日本語案作成，提示（11月末）
  - iv. AOP日本語案を最終化する（12月末）
  - v. 英訳（業者委託，修正，最終化，OECD DBに登録（3月末）
- タクロリムスAOPのinternal reviewersによる改善：2016年
- 追加 3種の免疫抑制剤に関する AOP事例研究：2017年
- 免疫抑制の AOP作成：2018年以降

国際化委員会

- 第54回米国毒性学会の共同シンポジウム“Immune responses to Different Classes of Inhaled Particulates: Unique vs. Shared Responses and Mechanisms”では、日本免疫毒性学会から平野先生・SOT/ITSSからDr. Holian (Montana大学) が座長。平野先生とともに黒田先生 (大阪大学), 李先生 (川崎医大) が発表。盛会裏に終了。
- 米国毒性学会の免疫毒性専門部会との研究者交換プログラムの一環として、第22回日本免疫毒性学会学術年会 (年会長: 高野裕久先生) での特別講演の演者にDr. Stacey Anderson (National Institute for Occupational Safety and Health, USA) を招聘。
- 第55回米国毒性学会年会のシンポジウムとして、日本毒性学会と米国毒性学会の免疫毒性専門部会との共同企画案が、Scientific Program Committee によって概ね了承。SOT側より New Orleans 開催なので“Toxicologic Legacies of Major 21<sup>st</sup> Century Man-made/Natural Disasters”がテーマであり、日本免疫毒性学会からは会員外ながら、弘前大学被ばく医療総合研究所: 吉田光明教授に「福島原発被災地住民のFISH法による被ばく検査」についてご発表いただき、座長も務めていただく。
- 今後、米国毒性学会の免疫毒性専門部会との研究者交換プログラムに関して、第23回日本免疫毒性学会における企画ならびに第56回米国毒性学会年会のシンポジウム提案を進める必要がある。

Year	JSIT → SOT/ITSS	SOT/ITSS → JSIT
2005		Dr.Cohen (第12回東京), J Immunotox の紹介
2006		Dr.Regal (第13回倉敷), 特別講演
2007		Dr. Dietert (第14回神戸)
2008	47回Seattle 香山先生:JSIT の紹介	Dr. Pruett (第15回東京), 招聘講演
以降, 正式に契約を交わし, 相互に宿泊費負担を開始。JSITからの企画をITSSの企画として審議・採択→SOT本体にあげて, 採択されれば, 企画セッションとして実施。		
2009	48回 Baltimore 野原先生: シンポジウム	Dr. Zelikoff (第16回旭川), シンポジウム
2010	49回 Salt Lake City 大槻: 進歩事務	Dr. Burlison (第17回つくば), シンポジウム
2011	50回 Washintong. D.C. 吉田先生: WS 50回記念としてブース出展	Dr. Ladics (第18回千葉), シンポジウム
2012	51回 San Francisco 手島先生: シンポジウム 発表: 中村先生, 新藤先生	Dr. van Loveren (第19回東京慈恵), 特別講演
2013	52回 San Antonio	Dr. Burchel (第20回東京東海), 教育講演 Dr. descotes, Dr. Payton: 20周年記念シンポジウム
2014	53回 Phoenix	Dr. Pallardy (第21回徳島), 特別講演 Dr.Cohen 日本毒性学会でのJSOT/JSIT合同シンポジウムのゲスト
2015	54回 San Diego 平野先生: シンポジウム 発表: 黒田先生, 李先生	Dr. Anderson (第22回京都)
2016	55回 New Orleans 吉田先生 (弘前大学) (会員外)	

学会賞・奨励賞 選考小委員会 報告

学会賞

研究タイトル

医薬品に関する免疫毒性学的研究と行政的貢献

受賞講演

抗がん剤の副作用と遺伝的背景 – 抗がん剤による白血球減少 –

澤田純一先生

医薬品医療機器総合機構

奨励賞

研究タイトル

粒子状物質により誘導される免疫応答とその誘導機構の解析 – 免疫毒性とアジュバント活性

黒田悦史先生

大阪大学免疫学フロンティア研究センター ワクチン学研究室

研究タイトル

環境汚染化学物質が“生活環境病”に及ぼす影響 – 免疫毒性学の視点から –

柳澤利枝先生

国立環境研究所 環境健康研究センター 生体影響研究室

# 日本免疫毒性学会事業報告-1-

(2014年4月から2015年9月まで) (案)

2015年9月10日

## 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、2013年に20周年記念の学術大会を開催したのち、新たな歩みを続けています。本学会は、前身である免疫毒性研究会から、免疫学と毒性学の双方に係る多分野の研究者の皆様の学術研究成果の発表と意見交換の場として貢献して参りました。従来より友好な関係を有する日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との学術大会の共催の継続に加えて、2013年6月に開催された第40回日本毒性学会学術年会で、本学会の企画による合同シンポジウムを開催したことをきっかけに、2014年7月の神戸コンベンションセンターでの第41回日本毒性学会学術年会におきましても本学会との合同シンポジウムを開催するなど、他学会との連携を強めています。また、海外との関係におきましても、米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会 (SOT-ITSS) との交流も継続しているなど、国内外において積極的に活動が行われております。

## 2. 2014年4月から2015年9月までの事業報告

### 1) 2014年の理事会及び総会・評議委員会の開催

新役員体制で初めての会議を以下の通り行いました。

#### ・理事会

2014年9月10日に、徳島市、徳島文理大学21号館1階会議室にて理事会を開催しました。

#### ・総会・評議員会

2014年9月11日(会期第1日目)に、徳島市、徳島文理大学国際会議場にて総会・評議員会を開催しました。

### 2) 2015年の理事会及び総会・評議委員会の開催

諸会議を以下の通り行いました。

#### ・理事会

2015年9月9日に、京都市、京都大学百周年時計台記念館会議室IIIにて理事会を開催しました。

#### ・総会・評議員会

2015年9月10日(会期第1日目)に、京都市、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて総会・評議員会を開催しました。

### 3) 第21回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第21回日本免疫毒性学会学術年會を、9月11、12日(金)徳島市、徳島文理大学国際会議場にて、「免疫毒性学研究的な新たな一歩」をテーマとして、年会長：姫野誠一郎理事(徳島文理大学薬学部衛生化学講座教授)のもとで開催されました。本学術大会の詳細は、<http://www.immunotox.org/>のHP上で、「学術年会」を選択してご参照ください。

### 4) 第41回日本毒性学会学術年会における本学会との合同シンポジウムの開催

2014年7月4日(金)に、中村和市理事(塩野義製薬株式会社)が年会長を務められた第41回日本毒性学会(神戸市、神戸コンベンションセンター、7月2~4日)におきまして本学会との合同シンポジウム「次世代が切り拓く革新的免疫毒性研究」(座長：澤田純一理事、大槻剛巳理事)が開催されました。SOT/ITSSよりProf. M.D.Cohen も参加しました。同シンポジウムの直前に開催された、William F. Hickey 先生(The Geisel School of Medicine at Dartmouth)による特別講演“Microglial cells in CNS Immune Reactions and Their Response”の座長を、上野光一理事が担当しました。なお、共催学会としての特別一般参加費(事前：11,000円)が設定されました。

### 5) ImmunoTox Letterの発行

下記の3号の刊行を行いました。

詳細はURL:<http://www.immunotox.org/>のHP上で、ImmunoTox Letterを選択してご参照ください。

19巻第1号(37号、2014年6月号)、和文版9頁、英文版4頁

19巻第2号(38号、2014年12月号)、和文版13頁、英文版6頁

20巻第1号(39号、2015年6月号)、和文版7頁、英文版3頁)

# 日本免疫毒性学会事業報告-2-

(2014年4月から2015年9月まで) (案)

2015年9月10日

## 6) 学会賞及び奨励賞

大沢基保名誉会員(食品薬品安全センター)に、第4回(2014年)学会賞が第21回日本免疫毒性学会学術年会時の総会において授与されました。第4回奨励賞は該当者無しとなりました。

また、学会賞・奨励賞選考小委員会におきまして、第5回(2015年)学会賞・奨励賞の選考を行い、学会賞受賞者に澤田純一先生氏(医薬品医療機器総合機構)、奨励賞受賞者として、柳澤利枝氏(国立環境研究所 環境健康研究センター)、黒田悦史氏(大阪大学免疫学フロンティア研究センター)が選考されました。第22回日本免疫毒性学会学術年会時の総会において授与されます。

## 7) 第22回日本免疫毒性学会学術年会の準備

2015年9月10、11日に、京都市、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて、第22回日本免疫毒性学会学術年會を、「免疫毒性の新たな視点—毒性影響とかく乱影響—」をテーマとして、年会長：高野裕久理事(京都大学大学院工学研究科環境衛生学講座教授)のもとで開催すべく準備が進められました。

## 8) 第23回日本免疫毒性学会学術年会の開催地及び年会長の決定

第23回日本免疫毒性学会学術年會を、年会長：森本泰夫理事(産業医科大学産業生態科学研究所呼吸病態学研究室教授)のもと、2016年9月5-7日、北九州市国際会議場(北九州市)にて開催することが決定されました。

## 9) 役員等の補充

例年通り、新評議員候補者については推薦を受け付けました。

## 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を行いました。

### 1) 事務局

(総務担当：大槻理事)

・会員の異動、会員数(名誉・一般・学生・賛助各会員及び休会員)

の推移と会費納入状況の把握、自動退会(会費未納退会)の整理等に関する事務

・名簿作成

(会計担当：斎藤理事)

・一般会計及び基金会計に関する事務

・予算書及び決算書の作成

### 2) 運営委員会(委員長：吉田理事)

・運営委員会

5回の会合を東京にて開催(2014年4月14日、2014年7月9日、2014年12月25日、2015年4月13日、2015年7月26日)し、会務運営、学術年會や関連学会等との共同企画の開催準備等が円滑に進むよう、協力体制を整備し、学会運営上の諸問題の改善について議論しました。

### 4) 広報委員会(委員長：大槻理事)

学会ホームページの定期的な更新を行い、役員人事の変更、学術年會等に関する情報の更新、第41回日本毒性学会で掲示した本学会の宣伝のポスターも掲載するなど、webのリニューアルも随時行っています。また、SOT/ITSSのnews letter も許可を得て掲載するなど、情報開示の充実にも努めました。バナー広告掲載数の減少を受け、新たに増やすための検討を行い、各理事には積極的な勧誘をお願いしました。

従来まで、会員に対する諸連絡は、mailing listにて行っています。事務局からあるいは会員間での情報交換のツールとしてご利用いただけます。

### 5) 試験法委員会(委員長：久田理事)

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第21回学術年會におきましては、「アレルギーと自己免疫疾患の新たな試験法を目指して」と題して、4人の先生方に講演をしていただき、ディスカッションを行いました。引き続き、試験法委員会では、会員から広く免疫毒性に関する疑問等を募集し、Q&A形式で取り纏めた回答案について学術年會において試験法ワークショップにおいて紹介・討論する企画を行っています。

また、JaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会（委員長：筒井理事）に参画し、諸外国で提案された皮膚感作性試験の代替法の内容をまとめ考察し、国内導入に向けて検討しJaCVAM評価会議（評価委員：牧名誉会員）に報告しました。さらに、JaCVAMから日本免疫毒性学会に医薬品を対象としたAOP（Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査）の作成依頼があり、試験法委員会に9名からなる小委員会（委員長：久田理事）を設置して対応することになりました。検討化学物質として既知のFK506(タクロリムス)で実施することとし、2015年3月末に中間報告書を提出しました。

また、JaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会（委員長：筒井理事）に参画し、諸外国で提案された皮膚感作性試験の代替法の内容をまとめ考察し、国内導入に向けて検討しJaCVAM評価会議（評価委員：牧名誉会員）に報告しました。さらに、JaCVAMから日本免疫毒性学会に医薬品を対象としたAOP（Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査）の作成依頼があり、試験法委員会に9名からなる小委員会（委員長：久田理事）を設置して対応することになりました。検討化学物質として既知のFK506(タクロリムス)で実施することとし、2015年3月末に中間報告書を提出しました。

6) 国際化委員会（委員長：中村理事）

海外からDr. Marc Pallardy (University Paris-Sud, France)との第21回学術年会への参加が、第21回学術年会事務局の企画によってなされました。

2015年3月の第54回米国トキシコロジー学会年会 (San Diego) における本学会とSOT-ITSSとの共同企画セッションは、平野理事提案のセッション「Immune Responses to Different Classes of Inhaled Particulates: Unique vs. Shared Responses and Mechanisms」がシンポジウムに採択され、JSIT（日本免疫毒性学会）からは、平野理事の発表と座長（共同座長（Dr.Holian (Montana University) ）、および大槻理事（代理：李先生（川崎医科大学））ならびに黒田評議員による発表が行われました。また、Global galleyにポスターを掲示し、西村評議員、李先生、中村理事が本学会の

取り組みを紹介しました。

2016年の第55回米国トキシコロジー学会年会 (New Orleans)ではDr.Cohenから「被災地における免疫毒性」というテーマが提案され、米国側ではHurricane Katrinaの被害を、日本側には東日本大震災と津波被害・福島原発事故被害についての報告が期待されていることから、大槻理事が知る吉田光明教授（弘前大学被ばく医療総合研究所、福島原発被災地（浪江町）住民のFISH法による被ばく検査）を候補者として推薦しました。

第22回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演にSOT/ITSSからの Dr. Stacey Anderson (National Institute for Occupational Safety and Health, USA)を招聘すべく、第22回学術年会事務局及びSOT-ITSSとの調整が図られました。

7) 学会賞奨励賞選考小委員会（委員長：手島理事）

2014年12月1日～2015年2月末日に学会賞及び奨励賞の推薦受付が行われ、学会賞に1名、奨励賞に2名の推薦書が提出され選考が行われました。その結果、2015年度学会賞受賞者として、澤田純一氏（医薬品医療機器総合機構）、奨励賞として、柳澤利枝氏（国立環境研究所 環境健康研究センター）、黒田悦史氏（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）が選考されました。

4. 2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）会計報告

1) 通常会計

別紙のとおり

2) 基金会計

別紙のとおり（個人的な寄付、学術年会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しています。）

2014年度 会計 決算案

日本免疫毒性学会 2014年度 会計報告案

通常会計

(単位円)

収入				備考
科目	修正予算	決算		
前年度(2013年度)繰越金	797,435	797,435		会計管理分514,813円、事務局管理分282,622円
2014年度会費	1,568,000	1,492,000		内訳「一般:167人×8千、過去年度17人(13人)×8千、学生:10人×2千」
ホームページ・バナー広告	180,000	180,000		(3社×2期)×3万円
AOP作成費立替(2014年度分)	0	27,825		JaCVAMより依頼のAOP作成費の不足分13円+委員旅費立替分27,812円
雑収入	300	889		サンメディア著作権料628円、銀行預金利子261円
収入合計	2,545,735	2,498,149		

支出				備考
科目	修正予算	決算		
第22回学術年会(京都)運営費	600,000	600,000		2015年度年会長:高野先生
第54回SOT年会派遣助成	100,000	0		2015年3月 カリフォルニア州サンディエゴ(被派遣者:平野先生) ご辞退
会議費	250,000	321,890		会議費(委員交通費)
通信費	100,000	67,691		切手・葉書、宅配便、電話
News Letter 製作費	150,000	138,240		第19巻、1、2号(ページ単価4,000円)
事務費	250,000	144,845		ゴム印、文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	323,352		サーバーレンタル料、ドメイン維持量、ホームページ更新料
AOP作成費(2014年度分)	0	500,013		AOP作成用パソコン、旅費、USBメモリ、ファイル等(2015年度にJaCVAMより50万円入金予定)
予備費	795,735	402,118		次年度(2015年度)への繰越見込み
支出合計	2,545,735	2,498,149		

基金会計

収入				備考
科目	修正予算	決算		
前年度(2013年度)繰越金	1,213,469	1,213,469		
ご寄付	0	50,000		
雑収入	200	99		銀行預金利子(定期預金)
収入合計	1,213,669	1,263,568		

支出				備考
科目	修正予算	決算		
学会賞・奨励賞 副賞	50,000	50,000		学会賞(大澤基保先生):5万円×1
予備費	1,163,669	1,213,568		次年度(2015年度)への繰越見込み(定期預金1,000,099円、普通預金213,469円)
支出合計	1,213,669	1,263,568		

2014年度日本免疫毒性学会

会計監査報告書

2014年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

2015年 8月 3日

高橋道人

高橋道人 

2015年 8月 12日

小島幸一

小島幸一 

2016年度 会計 予算案

日本免疫毒性学会 2016年度 予算案		
通常会計		
収入		
(単位円)		
科目	予算	備考
前年度(2015年度)繰越金見込み	707,143	
2016年度会費	1,492,000	内訳(一般会員会費納入義務者数207名、2015年4月現在、2014年度実績1,492,000円)
ホームページ・バナー広告	180,000	3社×2期×3万円:180,000円
AOP作成費(2016年度分)	500,000	JaCVAMより学会に委託
雑収入	850	2014年度実績は、サンメディア著作権料628円、銀行預金利子261円
収入合計	2,879,993	
支出		
科目	予算	備考
第24回学術年会運営費	600,000	2017年度年会長(予定):中村先生(青森)
第56回SOT年会派遣助成	0	2017年3月メリーランド州ボルチモア(被派遣者:斎藤)
会議費	200,000	会議費(委員交通費、2014年度実績 321,890円、運営委員会開催を3回から2回に)
通信費	70,000	切手・葉書、宅配便、電話(2014年度実績67,691円)
News Letter 製作費	140,000	2号分(2014年度実績138,240円)
事務費	150,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等(2014年度実績144,845円)
ホームページ維持費	330,000	2014年度実績323,352円
学会賞、奨励賞 副賞	110,000	学会賞:5万円、奨励賞:3万円×2
AOP作成費(2016年度分)	500,000	2014年度実績500,013円(委員旅費等)
予備費	779,993	次年度(2017年度)への繰越見込み
支出合計	2,879,993	
基金会計		
収入		
科目	予算	備考
前年度(2015年度)繰越金見込み	1,103,748	
雑収入	180	銀行預金利息(2014年度実績 99円)
収入合計	1,103,928	
支出		
科目	予算	備考
予備費	1,103,928	次年度(2017年度)への繰越見込み
支出合計	1,103,928	

1. 名誉会員： 推薦候補 無
2. 理事： 次年度改選, 変更 無
3. 評議員： 2015年8月 推薦受付

新評議員候補（敬称略）

- |              |     |                    |
|--------------|-----|--------------------|
| ➢ 上野 仁, 会員番号 | 243 | 摂南大学薬学部・公衆衛生学      |
| ➢ 串間清司, 会員番号 | 457 | アステラス製薬株式会社 安全性研究所 |
| ➢ 小島弘幸, 会員番号 | 27  | 北海道立衛生研究所 健康科学部    |
| ➢ 久富晃彦, 会員番号 | 365 | アステラス製薬株式会社 安全性研究所 |
| ➢ 小池英子, 会員番号 | 528 | 国立環境研究所・環境健康研究センター |
| ➢ 武吉正博, 会員番号 | 615 | (一財)化学物質評価研究機構     |

4. 監事： 小島幸一, 高橋道人：変更 無

5. 委員会：変更 無 (\*：委員長)

- 1) 運営委員会：吉田貴彦\*・上野光一・大沢基保・大槻剛巳・斎藤嘉朗・澤田純一・高橋道人・手島玲子・中村和市・野原恵子・久田 茂・牧 栄二（筒井尚久）
- 2) 学術・編集委員会：野原恵子\*・新藤智子・筒井尚久・角田正史・手島玲子・西村泰光・姫野誠一郎・藤巻秀和
- 3) 広報委員会：大槻剛巳\*・小池栄子・中村亮介・姫野誠一郎・山浦克典
- 4) 試験法委員会：久田 茂\*・井上智彰・小坂忠司・手島玲子・筒井尚久・牧 栄二
- 5) 国際化委員会：中村和市\*・香山不二雄・西村泰光・野原恵子・吉岡康雄
- 6) 庶務（総務）：牧 栄二・大槻剛巳, 庶務（会計）：斎藤嘉朗・中村亮介

6. 年会長

第23回：森本泰夫（産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学）

第24回：中村和市（北里大学獣医学部獣医学科毒性学研究室）

## 日本免疫毒性学会事業計画-1-

（2015年10月から2016年9月）（案）

2015年9月10日

### 1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を経て、あらたな歩みを進めています。この間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

そのためには、学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実する必要があると考え、国内の関連学会との共同企画の学術集会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流も継続していきたいと思えます。

なお、会計報告、4月から翌年3月の期間で行っています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

### 2. 事業計画（2015年10月から2016年9月まで）

#### 1) 2016年の理事会の開催

2016年9月5日、北九州市。

#### 2) 2016年の総会・評議委員会の開催

2015年9月6日（会期第1日目）、北九州市、北九州国際会議場。

#### 3) 第23回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第23回日本免疫毒性学会学術年会を、2016年9月5～7日に、北九州市、北九州国際会議場にて、年会長：森本泰夫理事（産業医科大学、産業生態科学研究所、呼吸病態学講座教授）のもとに開催の準備が進められています。

#### 4) 学会役員の改選

2016年9月に役員の改選を行います。

### 5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

20巻第2号（通巻40号、2015年12月号）

21巻第1号（通巻41号、2016年6月号）

### 6) 学会賞及び奨励賞の選考

第6回（2016年）学会賞・奨励賞の選考を行います。

### 7) 第24回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定

第24回日本免疫毒性学会学術年会を、十和田市にて、中村和市理事（北里大学獣医学部毒性学研究室教授）を年会長として開催される予定です。期日は、2017年9月が予定されています。

### 8) 第55回米国トキシコロジー学会年会への派遣

2016年3月に米国New Orleansにて開催される、第55回米国トキシコロジー学会年会に、本学会とSOT-ISSの共同企画テーマがシンポジウムとして採択されました。今回、被災地での免疫毒性というテーマをSOT/ITSS側から提示されたことを受け、大槻理事からの紹介で、本学会員ではありませんが、吉田光明教授（弘前大学被ばく医療総合研究所、福島原発被災地（浪江町）住民のFISH法による被ばく検査）がJSIT側から、参加される予定です。

### 3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定しています。

#### 1) 事務局

（総務担当：大槻理事）

・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助各会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務

・名簿作成

(会計担当：斎藤理事)

- ・一般会計及び基金会計に関する事務
- ・予算書及び予算書の作成

**2) 運営委員会** (委員長：吉田理事長)

2015年12月、2016年6月に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図ります。

**3) 学術・編集委員会** (委員長：野原理事)

上述のImmunoTox Letter の編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第6回(2016年)学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

**4) 広報委員会** (委員長：大槻理事)

継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めます。また、バナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。

**5) 試験法委員会** (委員長：久田理事)

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第23回学術年会(2016年9月5～7日に、北九州市、北九州国際会議場)でワークショップを開催します。

また、2014年から開始しましたJaCVAMの皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会(委員長：筒井理事)への参画を継続し、ECVAMやOECDで検討中の代替法について引き続き評価を行います。また、JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、医薬品を対象としたAOP(Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査書)について、引き続き作業を継続します。

**6) 国際化委員会** (委員長：中村理事)

第23回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第23回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年会長とSOT-ITSSの協議のうえ演者を招聘します。また、本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられています共同学術企画提案を継続するため、2017年3月の第56回米国トキシコロジー学会年会(March 12 -16, 2017; Baltimore, Maryland)に共同提案する企画案と派遣者を検討します。

**4. 予算**

**1) 2015年度通常会計予算** (2015年4月1日～2016年3月31日)

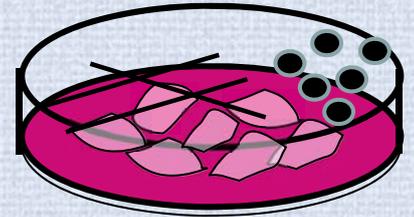
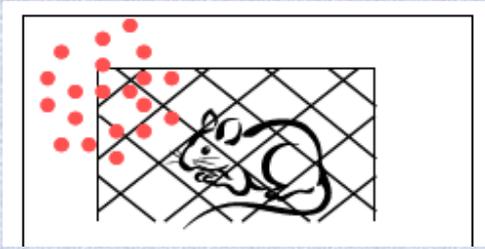
別紙のとおり

**2) 基金会計**

別紙のとおり。基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えるものです。



# 社会に実践する免疫毒性学



## 市民公開講座(経済産業省・北九州市共催) ナノ材料の有害性評価試験法の開発

許容ばく露濃度設定  
標準的試験法の開発

有害性・リスク評価  
発がん分類